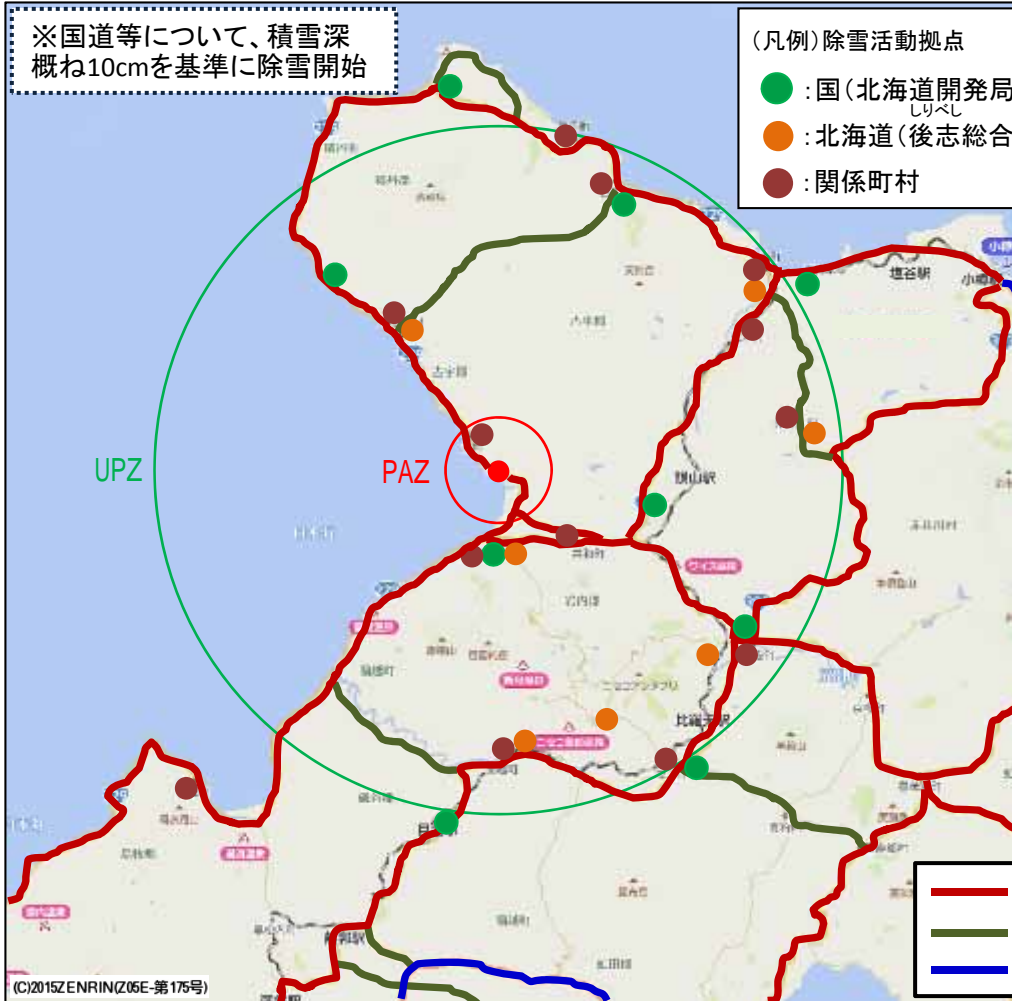


降雪時の避難経路の確保

- ▶ 北海道は地域防災計画に基づき毎年度、北海道防災会議に「北海道雪害対策連絡部」を設置し、関係機関とともに路線の重要性等を考慮してあらかじめ除雪路線を設定し、緊急時についても適切に除雪を実施。
- ▶ 直轄国道及び高速道路については、国土交通省北海道開発局及び高速道路会社(NEXCO)が、除雪体制の強化を図り各関係機関の緊密な連携の下、各機関の除雪計画に基づき、適切な除雪、凍結防止等の対策を行い、冬期間の交通の確保等に努める。



<除雪機械の保有台数>

原子力災害対策重点区域13町村		うち、泊村及び共和町
国(北海道開発局)	53台	9台
北海道(後志総合振興局)	59台	12台
関係町村	74台	11台
民間	483台	55台
高速道路会社(NEXCO)※1	39台	—
合計	708台	87台

※1 NEXCO東日本札幌高速道路事務所の保有台数。
※2 台数は平成28年3月31日現在。

- 暴風雪時(暴風雪警報または暴風雪特別警報の発表時)における避難行動では、車の立往生や交通事故等の二次災害を回避する必要があるため、天候が回復するまで屋内退避を優先し、天候回復後の速やかな避難に備えた準備を実施。

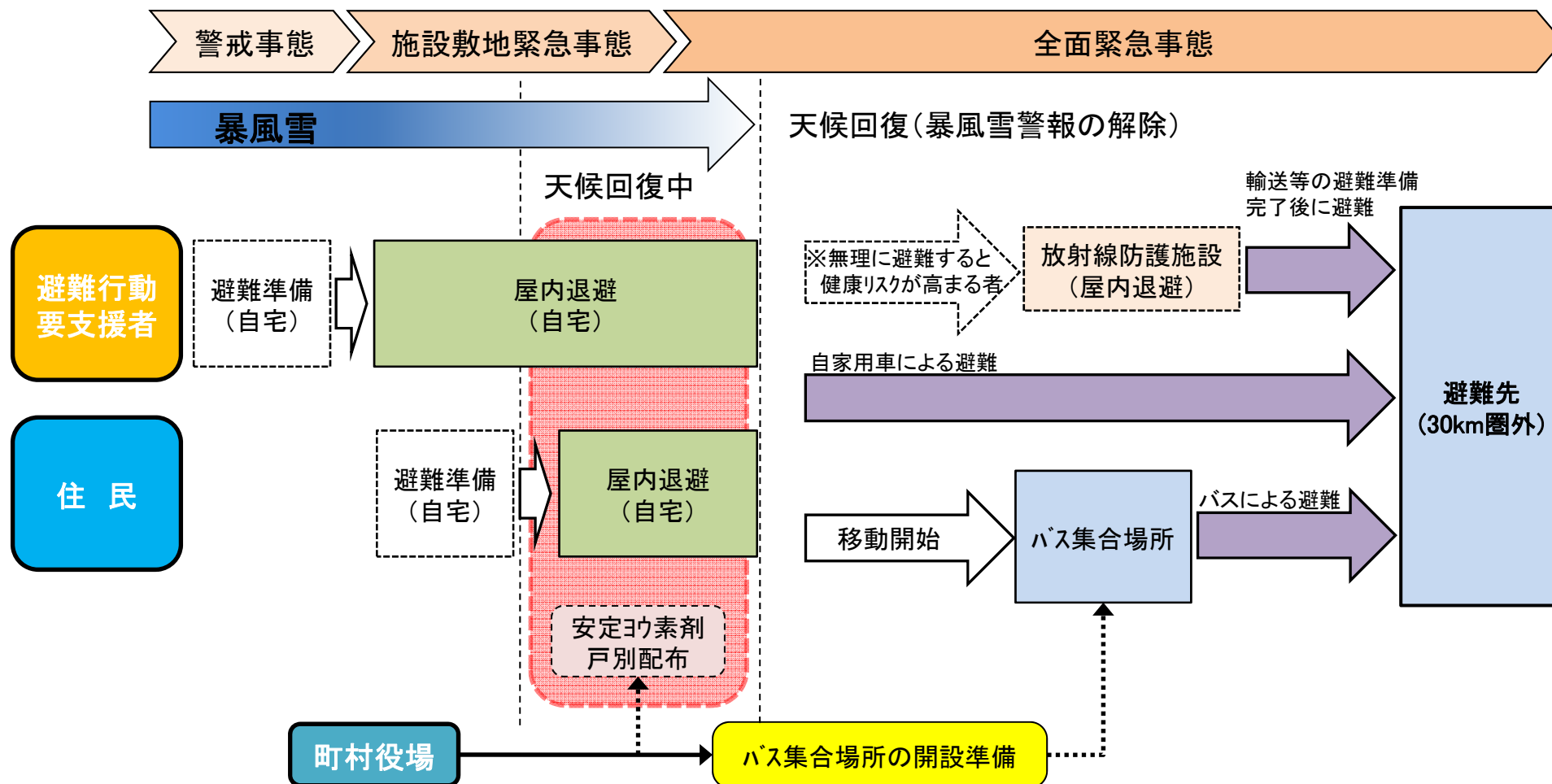
＜各緊急事態の区分における暴風雪時の対応策＞

緊急事態の区分	対象住民の区分	対応策
警戒事態	PAZ圏内避難行動要支援者	・避難準備を実施
施設敷地緊急事態	PAZ圏内避難行動要支援者	・避難準備を実施し、屋内退避を優先
	PAZ圏内住民	・避難準備を実施
全面緊急事態	PAZ圏内避難行動要支援者	・避難準備を実施し、屋内退避を優先 ・指示に基づく、安定ヨウ素剤の服用
	PAZ圏内住民	・避難準備を実施し、屋内退避を優先 ・指示に基づく、安定ヨウ素剤の服用
	UPZ圏内避難行動要支援者 UPZ圏内住民	・屋内退避を実施

暴風雪時におけるPAZ圏内の防護措置

- PAZ圏内の避難行動要支援者及び住民は、天候が回復するまで屋内退避を優先し、天候回復後は道路状況、プラントの状況等を確認後、避難を実施。なお、無理に避難すると健康リスクが高まる者は、近傍の放射線防護施設へ屋内退避を実施。

＜全面緊急事態で天候が回復した場合＞



※町村の職員は、天候の状況、プラントの状況等を踏まえて対応を実施

- 避難の際に安定ヨウ素剤の緊急配布を行う共和町では、暴風雪のため避難行動の開始が遅れるような事態となった場合には、施設敷地緊急事態等の早い段階で、PAZ圏内において、町職員等40人が2人1組となり、安定ヨウ素剤の戸別配布を実施し、住民の予防服用体制を確保。
- 暴風雪時に全面緊急事態に至った場合、住民は町村の指示に従い安定ヨウ素剤を服用。

きょうわちょう
 <共和町における緊急配布のエリア分け>



緊急配布地区	配布対象世帯及び人数	緊急配布地区	配布対象世帯及び人数
みやおか宮丘地区①	18世帯41人	はったり発足リヤムナイ地区	22世帯63人
みやおか宮丘地区②	25世帯72人	しもりやむない下梨野舞納地区①	21世帯45人
みやおか宮丘地区③	15世帯45人	しもりやむない下梨野舞納地区②	21世帯60人
みやおか宮丘地区④	14世帯23人	しもりやむない下梨野舞納地区③	23世帯57人
かしわぎ柏木地区	30世帯51人	あだち安達地区①	16世帯63人
ヤチナイ地区①	29世帯69人	あだち安達地区②	18世帯44人
ヤチナイ地区②	25世帯96人	まつざと松里地区①	22世帯45人
リヤムナイ中央地区①	29世帯64人	まつざと松里地区②	18世帯35人
リヤムナイ中央地区②	23世帯47人	北電社宅地区①～④	193世帯288人

※ 数字は現段階で共和町が把握している暫定値

※ 緊急配布では、必要に応じて町村職員が衛星携帯電話等により、保健所等の医師に確認を実施。

※ 泊村においても事前配布を受けていないPAZ圏内の住民に対し、村職員20人が2人1組となり戸別配布を実施。